

笠間原土 100%！の試作研究

窯業指導所

工芸部 鷺野谷 昇 大津 好満
安藤 康生

1. 緒言

笠間原土：100%を使用し、土味を強調し、Locality & Nosta19iを演出し、今日的生活空間の中にInterval・Timeとしての機能を試み試作したので報告する。

2. 内容

笠間焼の主原料である粘土（原土）は、笠間地方の洪積層中にポケット状に埋積する黒雲母花肉岩の分解二次粘土である。

主なる粘土鉱物はハロイサイト、イライトより成り、更に少量の加水ハロイサイト等が含まれている。央雑物として珪石・長石を含み、酸化鉄の含有が多い。また微粒子が比較的多く乾燥・加熱時の収縮が多く素焼までの取り扱いには充分注意が必要である。可塑性に富みロクロ成形には適しているが、石膏型による成形は離型が悪く問題が多い。1200 付近より焼結を始め、1300° Cで吸水率が殆ど無くなるが1280 付近より変形が著しい。焼成後の色調は酸化焼成で淡棕色より褐色、還元焼成では赤褐色を呈し笠間粘土特有の肌合いとなる。

この性質を持つ笠間原土を使用して試作を実施した。

素地	笠間原土 20メッシュアングダー
成形	ロクロ成形
釉薬	糖白釉
焼成	1250 , ガス炉, 還元焼成
製品	フラワーベース, ゆのみ, 小皿, 鉢等

3. 結言

こうした笠間粘土独特のクオリティーこそ、笠間焼の創期以来から現在まで、ひとつ、ひとつ大切に、陶工の感性と、ゆたかの感情のもとにつくられたのが特性と伝統ではないだろうか。

今、時代はアニメティ社会へと移行している、量より質が問われる社会こそ笠間焼が注目されるのではないだろうか。

この試作品は工業技術情報窯業編N 34（1988 - 9）に発表し、さらに業界に対して普及指導をした。



笠間原土100 %による試作品

